

公益財団法人 広沢技術振興財団

《研究課題名・講演会名等・調査課題名》

ベッド・車いす・トイレ間の移乗が介助者一人で簡便にできる装置

《申請者》

フリガナ：カブシキガイシャアグメント
所属機関・団体：株式会社アグメント
職位・氏名：代表取締役 柵木 貞雄

《研究・講演会等・調査の概要》

【自立歩行のできない患者に必要な移乗機の開発】

現場では、ベッドから車いす、車いすからトイレ、車いすからベッド等の移乗作業が要求されるが、これらの作業を一台の移乗機で対応できるものが現在存在していない。

各メーカー、及び大学等で研究開発されているもの（パワースーツ、ロボット等）は、高額で取り扱いが難しいものが多い。

よりシンプルで機能美があるものを提案し、介助者及び患者様に安心して使ってもらえる移乗機を開発する。

近年、我が国においては、高齢化が進んでおり、要介護者の人口が増加している。しかしながら、その割に介護者の人数は増えておらず、少ない介護者で多くの要介護者を介護することになっている。このため、腰を痛め、或いは激務により退職する介護者が増加し、これらのことが、ますます介護者の数の増加を阻害する要因となっている。

そのため、企業や研究機関等により、要介護者の移動をアシストするロボットや移乗機などが開発されてきているが、高価な割に結局介護者2名が必要であったり、車いすからトイレ便器への要介護者の移動ができなかったりと、扱いづらいものであった。

また普及できる価格帯は50万円前後であるが、現状は百万円単位である。

例えば、従来の移乗機は、要介護者を移動させるために、要介護者の尻の下にベルトを通し、そのベルトを機械で持ち上げることによって要介護者を移動している。そのため、尻の下にベルトを通すのは介護者が行う必要があり、尻の下にベルトを通すためには、介護者二人がかりで要介護者の腰を持ち上げ、ベルトをその下に通す必要がある。よって、結局介護者2名が必要であり、要介護者を持ち上げることにより介護者の腰に負担がかかって介護者は腰を痛めることになっていたそこで、弊社においては、上記実情を改善するため、要介護者のベッドー車いす間の移動と、車いすートイレ便座間の移動との両方を、介護者1名のみで、かつ、介護者の極めて小さな負担で可能にする低コストな移乗機を提供することを目的として研究を行う。